

函館版

2018年1月25日

【発行】

日本平和委員会
東京都港区1-4-9

NO.363



【函館版】

函館平和委員会
函館市湯川町2-29-
13 徳永気付
Tel .0138-57-5775

第3種郵便物許可
1950年12月16日

函館平和委員会会報

年頭のごあいさつ

平和委員会とノーベル賞

函館平和委員会会長 徳永 好治

会員のみなさん、新年をどのような思いで迎えられるでしょうか。私は、核兵器禁止市民運動がノーベル平和賞を受賞したことへの喜びを感じつつ新年を迎えました。

今日の核兵器禁止の平和運動の出発点は、1949年ピ

カソやジョリオ・キュリーなどの呼びかけでパリで開かれた第一回平和擁護世界大会の開催に始まると言つてよい。

“原子兵器禁止、および軍拡と軍事ブロック、植民地体制、日独の再軍備反対”が大会の主旨で、そして思想・信条・政党政派・イデオロギー・国籍・人種の相違をこえた広範な平和のための国際的統一戦線という画期的性格をもって発足しました。

日本ではその世界大会に呼応して東京で平和擁護日本大会がひらかれ、その日本大会

を契機として翌年1950年に日本平和委員会が発足しました。

北海道平和委員会の誕生は1954年、今から64年前です。その創立の「綱領」には次のように記されています。

「人間の歴史は特定の少数者が作るのではなく、諸国民の意思によって作り出すことができる」と私達は国内外の平和を願う人々と団結し、すべての人間が希う平和で幸福な生活のために活動する事を目的とします」そして函館平和委員会は1960年の設立です。

平和委員会は原水爆禁止運動や憲法を守り活かす活動を基調にしてこれまで運動を積み重ねてきました。

ストックホルムアピール署名の世界5億の運動を始め1950年代の日本そして世界

の運動を平和擁護世界大会議長ジョリオ・キュリーは「世論という一つの大国が生まれた」活動と評しました。

「平和のための国際的統一戦線」の今日の到達点である核兵器禁止条約は、平和委員会が積極的に寄与してきた長年の活動の実りです。「核兵器禁止条約を諸国民の意思」として人類史的評価をおこなったのが今回のノーベル平和賞の意味とおもいますので、平和委員会の歴史的活動もまた受賞を受けたものととらえたいと思います。

私は自分の55年のささやかな平和運動に誇りを感じ、そして故人となられた北海道平和委員会の松浦一さんや松井愈さん、函館平和委員会の山田実さん佐藤修さん佐藤かのさんたち多くの先達を偲んでいます。

会員の皆さん、ご自身へ平和ノーベル賞を贈り祝つて下さい。

函館平和委員会2018年 新年交流会が1月21日午後2 時から音楽鑑賞協会会館で16 人が参加して開かれ ました。

会長の挨拶、琴と音頭、沖縄レポートそして飲食と参加者の新年スピーチで楽しい元氣の出る時間を共有しました。

音頭「進水式」竹沢順子さんの音頭「進水式」が竹沢延晃さんの琴の音色とともに語られました。昨年9月に亡くなった会員の木下隆章さんの追悼をこめて40年（？）ぶりに披露されました。

1968年に木下さんも職場にしていた函館の造船所で過酷な労働環境のもとで機械に巻き込まれて死亡した労働者テツの物語音頭です。人間より



機械が大事とする資本家や船主のみによる「進水式」ではなく、労働者の代表がテープを切るような「進水式」をめざして、労働者の権利と誇りのある職場を造ろう、と語る音頭でした。

沖縄レポート

1月7日～12日沖縄平和ツアーに参加した安井事務局長が、多くのスライドを使って、沖縄辺野古や高江の現状を伝えてくれました。辺野古では自分も座り込みにも参加して埋め立て資材搬入のトラックに沖縄のおじん・おばんと共

に抗議行動をした経験の思いを熱く語りました。

楽しく飲食・トーク

差し入れが佐藤光（故佐藤修会長の長男）さんからお酒、鈴木奈保子さんから手作りのカボチャお団子、田中邦明副会長から漬け物とソフトドリンクがありました。金城公雄さんから自作の陶器猪口が十数器がプレゼントされお酒の人は格別の楽しみをしました。全員が今の思いを語り合いました。



「職場の若い人たちは、今平和に生きているので平和を意識したり考えることをしない。それが多くの普通の人たち」「観光で沖縄に行つて楽しかったが、今の気持ちで沖縄に行つてみたい」「函館には自衛隊の陸海、空がそろっている。パックスで航空隊が駒場の駐屯地に配置された」「北海道に翁長さんのような知事を誕生させ、それを支える議会をつくりたい」「選挙の共闘だが、人と人が信じ合えるのは一朝一夕ではできないかも、でも大事なことが痛感させられた」「大間原発判決が予定されているが、原発の恐ろしさは知ってしまったら忘れ去ることが出来ないこと」等々。

紺谷克孝さんから昨年10月岩国での平和大会に参加した感想が改めて話されました。

沖縄平和を考えるツアーに参加して

安井 徹

私は現在の沖縄の現状をこの目で見てみたいと思ひ平和と教育を考える連絡会が企画した沖縄平和を考えるツアーに参加して来ました。

ツアーでは不屈館（瀬長亀治郎資料館）沖縄陸軍病院20壕の見学、平和祈念資料館ひめゆりの塔、嘉数の丘（普天間基地が見える）、高江のテント訪問、辺野古海岸のテント訪問、稲嶺市長激励選挙事務所、キャンプシュワブゲート前座り込み等、見たり聞いたり実際に体験したりと大変貴重な体験をして来ました。

辺野古の海を見て来ました。が新基地計画によってジューゴンをはじめとする絶滅危惧種が262種も生息している辺野古・大浦湾はこれらの貴重な生物の多様性が失われてそ

の存在がおびやかされる事を知りました。体験では沖縄陸軍病院20壕の見学で血と膿と糞尿の臭いが漂う想像に絶する壕の中で手術を行った場所や負傷した兵士が横たわっていた所などを見て来ました。ヘリパット建設に反対している高江のテント前では民間の警備が厳重に行われていて警備費は一日2000万円必要と聞きました。嘉数の丘からは普天間基地がよく見え世界一危険な飛行場である事がよく解りました。ヘリから落下物が落ちた緑が丘保育園なども見て来ました。米軍キャンプシュワブゲート前では碎石などの資材を積み込んだトラックや生コン車などの工事車両が200台近く搬入されていて、それを阻止しようとゲート前に座り込んだ住民が機動隊に次々に排除されている光景を目の当たりにしました。

今まではDVDや写真で見えてはいましたが、実際に現場に

行くその光景を



事によって沖縄の人たちの思いの強さを強烈に感じました。また、オスプレイが落ちた場所の近くも見ることができました。沖縄戦ではすさまじい爆弾投下と砲撃にみまわれ多くの人々が亡くなり、その後沖縄に上陸した米軍は生きのびた住民を強制的に収容所に送り土地も強制接収、銃剣とブルドーザーで基地を作ってきました。長い年月沖縄は米軍基地に起因する騒音問題や環境問題、事件、事故にさいなまれていきます。土地を奪って住民に大きな苦しみを与えておきながら普天間飛行場の移設は辺野古が唯一の解決策

だから沖縄が基地を負担しろとは理不尽だとの思いはよく理解できました。

1月28日告示、2月4日投票の名護市市長選挙が行われています。名護市長選は新基地建設を阻止する強大な法的権限があり、美謝川の水路切り替えや埋め立てに必要な土砂に関わる権限は市長の権限です。これらの権限を行使し新基地を阻止するためには稲嶺市長を絶対当選させなければなりません。稲嶺市長選挙事務所に行き市長とお会いして

激励して来ました。この度のツアーでは私自身貴重な体験や新しい知見があり大変勉強になりました。

後列右2人目が私その隣が稲嶺知事



私のメッセージ

啄木の函館

金城小枝子

作年二〇一七年に、啄木来函一〇年の函館文学館特別展として、六回の講演、又文化団体主催の沢山の催しが行われたが、その全部に参加した。

文学少女(?)だった小学生時代のノートに啄木、中原中也、高村光太郎、北原白秋、藤村、ボードレール等々の詩がいっぱい書いてある。自分でも詩、短歌、俳句、小説も書いていた。

岩見沢生まれの私、函館に来た理由は一に啄木、二に海、三にダンナと言うと皆に笑われるが・・・。

自分は天才という思いがあり、嘘つき、借金だらけ・・・、啄木は好きと嫌いとは分かれるが・・・。

同郷の三才上の金田一京助が百年に一人、いやこんな天才は二度と現れないだろうとまでいわしめた啄木。

家族と両親と妹を養う貧乏暮らしと借金地獄のなかで、社会主義にめざめ、大逆事件に衝撃を受け、弁護士に平出修より裁判記録を借り、一夜で書き写した。明治四十五年四月十三日、二十六才二月で結核で死。

残された節子夫人、長女京子、腹の中の七ヶ月の房江(千葉県の房総半島で生まれた)。

新聞記者、代用教員、小説家、詩、短歌、評論、文章のうまさとの上手さ(日本十六人の筆の達筆者の中に入っている)。

節子は死の直前、私一人函館の墓は寂しい、啄木の骨をもらって来ると、宮崎郁雨と岡田健蔵(元函館図書館長)に頼み、郁雨が金を出し岡田健蔵が浅草等光寺に骨をもら

いに、そして母カツ、長男真一(生後二十四日で死)三人の遺骨を持ち帰り、大森浜の見える立待岬の「啄木一族の墓」(九名の骨が入っている)を建立。石碑の表に啄木直筆の「東海の小島の磯の白砂に我泣きぬれて蟹とたわむる」、裏に郁雨に送った手紙の一部「死ぬ時は函館で死にたい」が刻まれている。

大森浜の啄木小公園に本郷の啄木像と「潮かおる北の浜辺の砂山のかの浜薔薇よ今年も咲けるや」又函館公園に「函館の青柳町こそかなしけれ友の恋歌矢ぐるまの花」がある。

漂泊の歌人啄木、函館百三十二日、札幌十四日、小樽百十五日、釧路十六日そして東京。

宮崎郁雨と金田一京助の援助がなかったら今の啄木はないし、節子が死んだら「焼け」といわれた日記、ローマ字日記を焼かなかったで現在の

啄木研究がある。「国際啄木会」があり、露、仏、独、中、英等に翻訳され世界中に読まれている詩や歌。

とにかく啄木くく、啄木狂です。私は啄木の愛した函館に魅せられています。今年もよろしくお願いします。

稲嶺ススム勝利を！

支援募金3万3200円

新年交流会などで多くの会員からの熱烈な思いを託されました。有り難うございます。すでに一部の2万円が安井事務局長立て替えて直接稲嶺知事に届けました。残りを急ぎ送金します。

稲嶺ススム後援会会長渡具知武明氏より「・・・この度のご芳志に感謝申し上げます。お礼のごあいさつと致します」というお礼状が届いています。